

文化財調査報告書

調査日 : 平成22年7月19日、25日

1. 種 別 無形民俗文化財
2. 名 称 東金ばやし
3. 員 数 ー
4. 指定年月日 昭和38年5月4日
5. 伝 承 地 東金市岩崎・押堀（日吉神社）
6. 伝 承 者 東金ばやし保存会い若会・雷囃子保存会

7. 現状及び環境

東金囃子は東金市大豆谷（マメザク）地区に鎮座する日吉神社の夏の大祭（隔年）に出る近隣9地区の山車や屋台の上で演奏される祭囃子で、保持団体は岩崎地区の「東金ばやし保存会い若会」と押堀地区の「雷囃子保存会」となっているが、同様の囃子は他の7地区でも演奏されている。

演奏団体は「下座」「下座連」と呼ばれ、楽器は笛（篠笛と能管）3,4人、締太鼓（短胴小型）3,4人、三味線2,3人、大鼓（おおかわ）2,3人、小鼓（こかわ）2,3人、大太鼓（おおどう）1人、摺鉦1人。全体の人数は決まっていないが、山車（屋台）の大きさによって規制される。山車前面には締太鼓が岩崎区のみ4人、他の区は3人並び、その後ろに三味線と笛が座り、大太鼓は最後尾に位置する。大太鼓、大小の鼓や摺鉦は後方御簾の中に座る地区もある。

笛は、篠笛（7孔の篠笛で3本調子）と能管（地元では横笛（おうてき）と呼ぶ）の2種類の笛を曲によって使い分けている。

岩崎区でも押堀区でも2種類の横笛を奏者のリーダーが先代の笛を範に手作りしている。篠笛の手作りはよくあるが、より複雑な工程の能管を手作りしている例は珍しい。大太鼓は歌舞伎下座音楽でも使われる細長のバチで、予め革面を布で湿らせ柔らかな音を出すようにしている。

岩崎区の「東金ばやし保存会い若会」は、締太鼓に小学生の男女を大勢稽古に参加させており、後継者問題はなさそうである。山車の正面に乗る締太鼓4人は10代の女性、笛も若い男女が担当しており、三味線は元芸妓の方と中学生が、

その他の楽器も老若男女幅広い年齢層が参加している。持ち曲は「しちょうめ」「通り囃子」(以上能管)、「馬鹿囃子」「い若囃子」(以上篠笛)その他に「大漁節」(篠笛)を三味線奏者の弾き歌いと一緒に演奏する。「しちょうめ」はもっとも位のある儀礼的な曲で、山車の出発や、神社の前を通る時、山車のハナ(先端)を上げた時などに奏する。「通り囃子」は山車の進行中に奏する。「馬鹿囃子」「い若囃子」は賑やかなテンポの速い曲で進行に勢いを付けたい時に奏する。「大漁節」は曳き手も一緒に歌い踊り盛り上がる曲である。「しちょうめ」は江戸囃子と同じ曲名だが内容は大分違い、能管による旋律は能楽囃子を思わせる。日吉神社祭礼の他、市の芸能大会に毎年出演している。

押堀地区の「雷囃子保存会」は会員 18 人。会長は大正 15 年生まれ、最年少は小学 4 年生。以前は押堀区の春祭りや秋の稲荷祭にも演奏していたが、今は日吉神社大祭のみなので、稽古も祭り前 1,2 ヶ月毎土曜日に行なっている。最近市の芸能大会にも毎年参加していない。楽器構成はい若会とほぼ同じだが演奏総人数は少し少ない。持ち曲は「しちよめ」「東金囃子」「雷囃子」(以上能管)「通り囃子」「馬鹿囃子」「鎌倉」「中山」「大漁節」など篠笛の曲はいろいろある。押堀地区独自の曲「雷囃子」は、芸能大会では演奏するが、祭ではあまりやらないが今回特別に演奏してもらった。

8. 芸態の変化

東金囃子は明治 15 年当地で客死した長唄の芳村伊三郎が滞在中、従来の曲目に長唄囃子を取り入れて編曲したといわれており、三味線は花街があった岩崎区では当初から使われていたが、だんだん周辺地区にも広がり、現在では押堀区を含め、半分以上の地区で 1,2 人が加わっている。押堀区では昭和 49 年の調査時には三味線はなかったが、今は「色付け」に少女が 1 人参加している。ただし、まだ全曲は弾けない。千葉県の民謡である「大漁節」は初めは余興的に添えたのだろうが、曳き手と見物人、囃子が一緒になれる曲として多くの区の人気曲となっている。また日吉神社大祭で「大漁節」を踊ったり、明らかに佐原囃子の曲を囃している区もあった。演奏団体を「下座連」と呼ぶのも佐原囃子の影響と思われる。(東金は佐原囃子分布圏の南端に接する)

9. 取り扱い上の留意事項

特になし

10. 公開にあたっての取り扱いについて

岩崎区の東金ばやし保存会い若会は大勢の子供をかかえて勢いがあるが、押堀区の雷囃子保存会は地区独自の曲である「雷囃子」が「しちよめ」に似ていて混乱しやすいからと、演奏する機会はほとんど市の芸能大会に限られているという。その芸能大会にも毎年出演しているわけではないそうで、今回は昼休みに軽く練

習してから演奏してもらった。押掘では、昭和49年の調査時点は地区の菅原神社春祭り（2月25日）、秋の稲荷祭（10月19日）でも演奏していたが、今は隔年の日吉神社大祭だけに参加する。せめて市の芸能大会には毎年出るよう促すことが求められる。

1 1. その他参考にすべき事項

東金ばやしの指定は、昭和38年5月4日に東金ばやし保存会いわか会が指定となり、その後、昭和50年3月28日に雷囃子保存会が追加認定された。

今年度、県指定民俗文化財の記録映像作成事業として、映像記録を作成する予定である。

これまでに作成された記録

- ・市制施行40周年記念第1回東金市民俗芸能大会（平成6年） DVD
- ・平成16年11月6日 まい・舞・はやしフェスタ DVD（内部資料）
- ・祭暦三百四十三年（千葉県東金市）日吉神社連合祭典 平成十八年七月二十二日 二十三日 DVD



東金ばやしい若会



雷囃子保存会